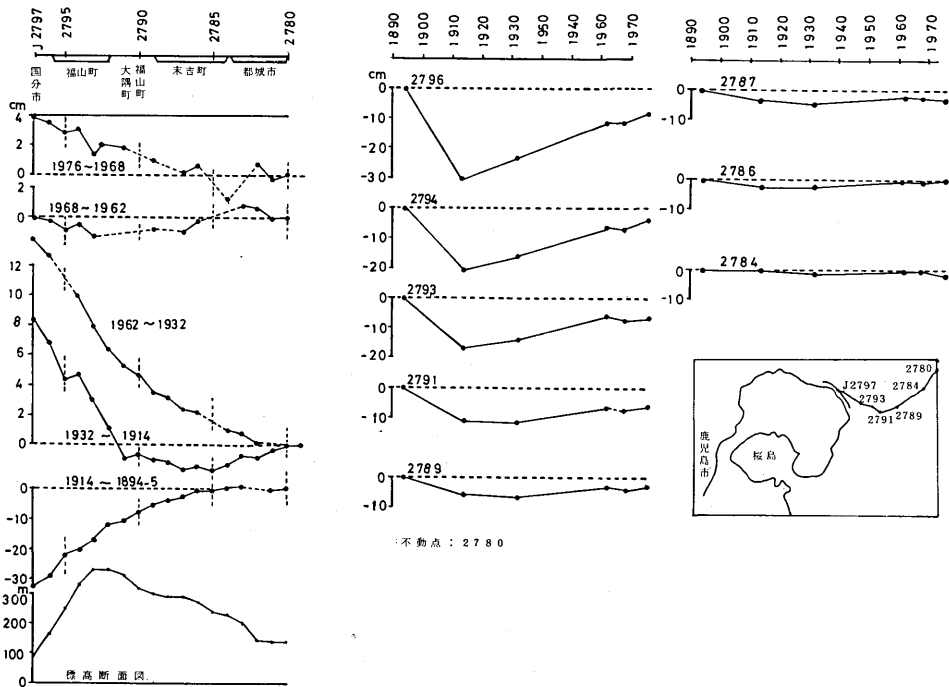


桜島付近の水準点上下変動*

国土地理院

国土地理院では国分市から都城市に至る二等水準測量を1976年6月から7月にかけて行なった。この地区では第1図左側に示したように1894年以降6回水準測量がくり返されているが、今回を除いて他はすべて一等水準測量の精度で観測されている。最下段の上下変動は1914年桜島大正噴火をはさんだもので、都城市に対し国分市は約30cm沈下している。それ以後は1968～1962年の間を除いてほぼ様な速度で隆起が続いている。



第1図 桜島付近（国分市～都城市）の上下変動図

第1図右側には、代表的な水準点を選んでその経年変化を示した。図中………は事故等で水準点が再設されたため、両端の正常な水準点から推測した区間である。前号で紹介したように、姶良カルデラ西岸の隆起速度の大きい水準点のなかには第1回目（1891年）測量当時の値に回復しさらに隆起を続けているものもあるが、この地区ではまだ第1回目（1894年）の値まで回復していない。

* Received Jan. 31, 1977

-18-